



医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学
大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

2 取組紹介

3 蔵本キャンパスでともに学ぶ ～基礎的・汎用的能力の育成～

1 巻頭言

～医療教育のグローバル化～



医療教育開発センター長 赤池 雅史

文部科学省が策定した「国立大学改革プラン」では、各大学の機能強化の視点として、「強み特色の重点化」、「イノベーション創出」、「人材養成機能の強化」とともに「グローバル化」が挙げられています。これを受けてわが

国の医療教育のグローバル化も、ますます加速していくと思われま

す。医学教育の領域では日本医学教育質保証協議会（JACME）が実施する国際基準に基づく医学教育分野別認証を2023年までにクリアすることを全国すべての医学科が目標として掲げ、その準備が開始されました。この国際基準に則った教育認証では、アウトカム基盤型教育への転換、座学から双方向性・参加型教育への教育手法の転換、そして継続的な検証と改善を行うシステム構築とそれによる教育の質のコントロールが必要とされています。このような流れは医学教育に留まらず、すべての医療教育に拡大されていくのではないのでしょうか。最近、WHOでは、患者安全カリキュラムガイド多職種版を策定するとともに、保健人材育成改革ガイドラインにチーム医療教育を明記しました。さらに、グローバルスキルとは、単なる英語力に留まらず、基礎的・汎用的技能と一体となったものであることが指摘されています。このようなことから、医療教育のグローバル化においては、それぞれの専門性の追求とともに職種連携教育の重要性が、ますます増大していくと考えられます。

これまで医療教育開発センターでの国際交流の取組としては、海外留学生を対象とした英語プログラムの運営支援やサマープログラムヘルスバイオサイエンスコースでの授業調整担当があります。また、平成23～25年度には若手研究者海外留学支援として、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「疾患ニュートリウムを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築」（日本学術振興会、主担当研究者：玉置俊英教授）の実施を担当しました。学部教育では海外からのスキルスラボ視察・研修を受け入れ、特にヘルシンキメトロポリア応用科学大学学生と保健学科学生との合同研修は、英語での実践的なコミュニケーショントレーニングとなるだけでなく、器具や処置方法の国による違いに気づく貴重な機会にもなっています。

医療教育開発センターでは、このような取り組みが単発・イベント的に留まるのではなく、日常の医療教育の内容そのものが国際水準をクリアし、さらには徳島大学の医療教育の特徴を世界に向けて発信できるよう、学部・教育部と連携しながら取り組んでまいりたいと思います。

2 取組紹介 ●●●

■多職種連携教育(IPE)～医療共通教育

複雑化し多様化する今日の医療において、欠かすことのできないチーム医療。チーム医療でもっとも大切なのは、各分野の医療スタッフが相互に理解を深め、信頼の念を持って共通の問題解決に取り組むことです。今、大学教育の中に『将来のチーム医療』を見据えた学習の継続的な積み上げが求められています。

徳島大学の現状

平成19年に、薬学部、医学科、保健学科でスタートした『チーム医療入門 蔵本地区1年合同ワークショップ』は、平成23年第5回より蔵本地区全学科の1年生が参加して半日のスケジュールで行われています。毎回、1年生が取り組みやすい題材を選び、KJ方を用いたワークショップを行います。2グループに1人のチューターがワークをサポートし、このワークは教員と学生の交流の機会にもなっています。

今後もこのWSは徳島大学蔵本キャンパスにおける多職種連携教育の初年次基盤作りとして、継続されて行く予定です。それとともに、今後はこれに続く学習が必要です。

	テーマ	題材	参加人数	チューター数
第7回 (H25)	チーム医療を行うために必要な能力とは	講演『福島現場から』	423名 (参加率93%)	31人
第6回 (H24)	チーム医療を行うために必要な能力とは	講演『病院を支える人たち、そして地域で患者さんを支える人たち』	413名 (参加率98%)	30人
第5回 (H23)	医療人を目指す者として東日本大震災から学ぶこと	講演『東日本大震災の救援活動を体験して』	415名 (参加率92%)	30人

平成25年度第7回チーム医療WSの様子



全体説明、講演



グループワーク



成果発表



■大学院教育クラスター

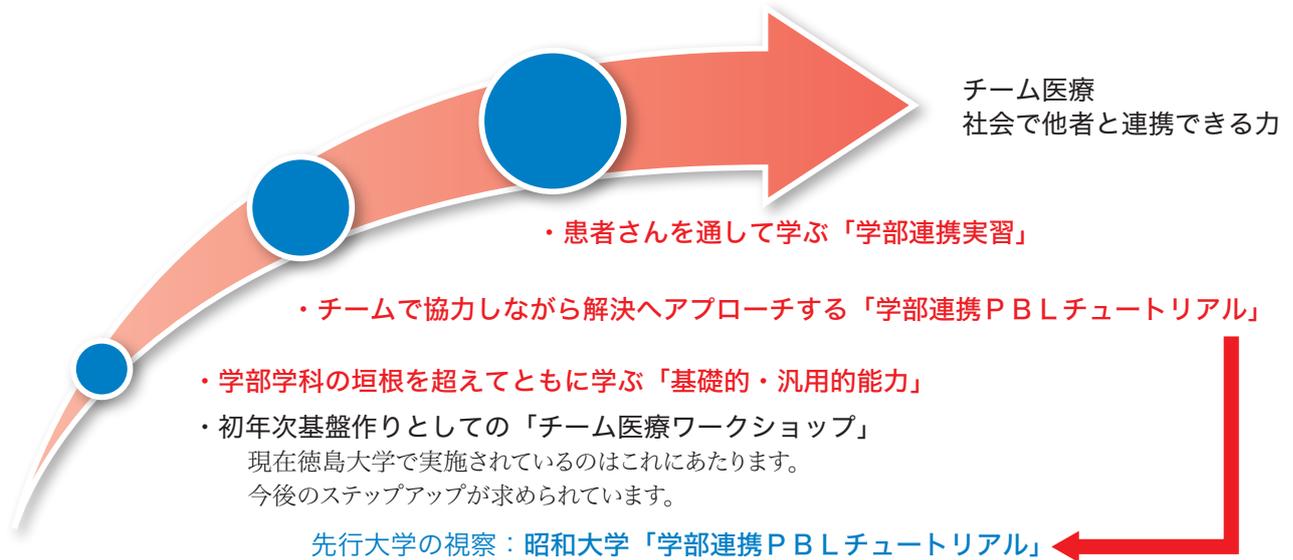
《コアセミナー》6クラスター合わせて36回のコアセミナーが開催されました。詳細は医療教育センターHP (http://www.hbs-u.edu.jp/center/center_brief.html) より確認できます。

《ミニリポート》各クラスターが様々な形でミニリポートを開催し、合計192名が参加しました。ミニリポートにおける優秀発表賞として、46名の大学院生が支援を受けています。

クラスター	日時	場所	参加人数						受賞
			外部講師	教員	大学院生	学部学生	事務補佐	合計	
感染免疫	H25.10.31-11.1	ルネッサンスリゾートナルト	1	17	14	11	0	43	2
ストレスと栄養	H25.12.18	日垂メディカルホール	2	14	32	6	0	54	8
心・血管	H26.1.10-11	ホテルセカンドステージ	2	11	11	4	0	28	12
骨とCa	H26.1.31-2.1	淡路島洲本温泉海月館	1	8	12	0	0	21	10
肥満・糖尿病	H26.1.31-2.1	ウェスティンホテル淡路路夢舞台国際会議場	1	8	4	2	0	15	3
脳科学	H26.2.1-2	ウェスティンホテル淡路路夢舞台国際会議場	1	13	14	3	0	31	11
計			8	71	87	26	0	192	46

『基礎的・汎用的能力』をチーム医療の実践に活かす

社会的・職業的自立のために共通して身につける必要がある能力として近年重要視されているのが基礎的・汎用的能力です。コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、情報リテラシー、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力、自己管理能力、問題解決力、論理的思考力、数量的スキル、統合的な学習経験と創造的思考力などが挙げられています。これらの学習は、学部、学科の垣根を超えてともに学ぶことができ、ともに学んだ経験が専門性を高めた時のチーム医療に役立つのではないのでしょうか。ともに学ぶべきもの、それぞれが専門性を求めて学ぶべきものをしっかりと見据えたカリキュラムの構築が必要と思われます。



2,3年生が小グループで、シナリオの患者さんについてプロブレムマップを作成し、アプローチの方法について検討する。医学科、歯学科、薬学部3年生、保健学科2年生が自分の調べたことについて発表し合い、熱心に討議していました。本学でも3月25、26日に学生教員合同FDとしてトライアル授業を実施しました。



日本学術振興会平成23年度採択(平成23-25年度実施)

頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム

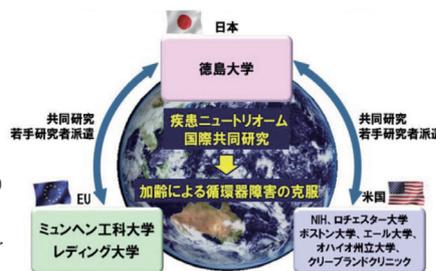
『疾患ニュートリオームを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築』

3年間に7名の若手研究者が国際共同研究として海外に派遣されました。帰国時には研究者を中心に活動報告、ディスカッションの場として8回のリサーチカンファレンスを開催しました。

派遣先

- エール大学、オハイオ州立大学(米国)
- ミュンヘン工科大学(ドイツ)
- クリーブランドクリニック(米国)
- NIEHS/NIH(米国)
- ポストン大学(米国)
- レディング大学(英国)
- ロチェスター大学(米国)

* 平成26年4月18日(金)
17:00-18:30
第5会議室
第8回リサーチカンファレンスが開催されます。



3 蔵本キャンパスでともに学ぶ～基礎的・汎用的能力の育成～

●2013 Tokushima Bioscience Retreat

日時:平成25年9月19日(木)～21日(土)
場所:リゾートホテルオリビアン小豆島
参加人数:学生20名、教員10名
特別講演



『NotchおよびBMP-ALKシグナル

伝達系下流因子の心血管系における意義』

講師:中川 修 先生

(奈良県立医科大学 先端医学研究機構循環器システム医科学研究室 教授)

●第7回「チーム医療入門」蔵本地区1年生合同WS

『チーム医療を行うために必要な能力とは?』

日時:平成25年9月30日(月)
13:00～17:00

場所:大塚講堂大ホール 他

参加人数:423名(全1年生の93%)



●第5回医療教育講演会(蔵本地区合同授業)

『東日本大震災から2年半、
地域・生活の復興とは』

日時:平成25年11月6日(水)
18:00～19:30

場所:大塚講堂大ホール

講師:熊坂 義裕 先生

(盛岡大学栄養科学部 教授)

参加人数:371名



●模擬患者参加型教育

【HBS研究部FD】

『第3回How to医療コミュニケーション教育

～医歯薬学教育アウトカムに応じた模擬患者育成～』

日時:平成25年11月16日(土)

9:00～12:00

場所:青藍会館大会議室

講師:藤崎和彦 先生

(岐阜大学医学教育開発研究センター教授)

参加人数:33名



●学会活動●

第75回日本臨床外科学会総会(H25年11月21日 名古屋)

『開腹手術は内視鏡下手術トレーニングに必要である

～鏡視下手術理解促進のための基礎的検討～』

岩田貴^{1,2)}、島田光生¹⁾、栗田信浩¹⁾、佐藤宏彦¹⁾、吉川幸造¹⁾、東島潤¹⁾、
西正暁¹⁾、近藤素也¹⁾、徳永拓哉¹⁾、松本規子¹⁾、赤池雅史²⁾

外科学¹⁾、医療教育開発センター²⁾

第26回日本内視鏡外科学会総会(H25年11月30日 福岡)

『腹腔鏡下手術トレーニングボックスを用いた

鏡視下手術手技理解促進のための基礎的検討』

岩田貴^{1,2)}、島田光生¹⁾、栗田信浩¹⁾、佐藤宏彦¹⁾、吉川幸造¹⁾、東島潤¹⁾、
西正暁¹⁾、近藤素也¹⁾、柏原秀也¹⁾、松本規子¹⁾、徳永拓哉¹⁾、赤池雅史²⁾

外科学¹⁾、医療教育開発センター²⁾

平成25年度全学FD推進プログラム大学教育カンファレンス(H25年12月26日)

『スキルズ・ラボにおける海外交流トレーニング』

岩田貴、福富美紀、長宗雅美、赤池雅史

HBS研究部医療教育開発センター

『医療系学生は医療コミュニケーションをどこで学んでいるか』

長宗雅美、岩田貴、福富美紀、赤池雅史

HBS研究部医療教育開発センター

第248回徳島医学会学術集会(H26年2月16日)

『海外交流体験実習を利用したスキルラボでのグローバルスキルトレーニング』

岩田貴¹⁾、赤池雅史¹⁾、長宗雅美¹⁾、福富美紀¹⁾、島田光生²⁾

HBS研究部医療教育開発センター¹⁾、徳島大学病院消化器・移植外科²⁾

『臨床実習における医学生のコミュニケーションの現状』

長宗雅美、岩田貴、福富美紀、赤池雅史

HBS研究部医療教育開発センター

平成25年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議(H26年2月16日)

セッション2病院情報システム(学生教育)

『学生教育環境における病院情報システム機能と運用』

赤池雅史

HBS研究部医療教育学

●医療教育miniコラム●

日本医学教育質保証協議会(JACME)

2010年9月にECFMGがWFME等の国際基準に認定された医学部出身者しか受験資格を与えないことを表明したことをきっかけに設立された。国際基準に則った医学教育分野別評価基準日本版を制定し、これを用いた認証評価を2023年までに全医学部を対象として実施する方針である。この認証評価は、自己点検、外部評価、教育改善、社会的認知からなる教育質保証のシステムであり、目標は国際化に対応した医学教育の質向上である。

●お知らせ●

●2014 Tokushima Bioscience Retreat

日時:平成26年9月18日(木)～20日(土)

場所:リゾートホテルオリビアン小豆島

担当:栄養生命科学教育部

●第8回「チーム医療入門」蔵本地区1年生

合同WS

日時:平成26年9月30日(火) 13:00～17:00